

# 「全員留学」制度のある大学はどうしてる？

～「全員留学」実施大学における“留学に行けない”状況での教育

大学名	国際教養大学	武蔵野大学	近畿大学	
	THE世界大学ランキング日本版2020/10位 外国人学生比率/24.5%、留学比率/20.4%、 英語講座比率/77.6%、海外協定校/185校	THE世界大学ランキング日本版2020/151-200位 外国人学生比率/7.2%、留学比率/2.9%、 英語講座比率/4.5%、海外協定校/66校	THE世界大学ランキング2021/801-1000位 同アジア版2020/=172位 同日本版2020/=75位 外国人学生比率/1.8%、留学比率/2.3%、 英語講座比率/2.4%、海外協定校/252校	
全員留学の内容	対象学部(入学定員)	国際教養学部(175人)	グローバル学部 グローバルコミュニケーション学科(165人)	国際学部(500人)
	狙い 時期や 行き先 など	▶自らの学びをデザインし実践する 力や、異文化の環境でもまれ、知識 だけでなく、全人格的な「人間力」を身に 付けることなどが狙い ▶期間は1年間。時期は個々で異なる が、主に2年次冬か3年次秋から。留 学先は、50の国・地域にある200の提 携校の中から、学生の希望を基に 成績や志望理由などで選考して決定	▶語学力の向上と異文化体験を通し た、人間的成長を期待 ▶2年次前期に5か月間、アメリカに 留学(約12か所に分散)。ホームステ イ形式。事前学習では、留学先の地 域・文化などを調べ、目標設定や行動 計画を立案。事後学習では、振り返り を基に自己のキャリアを考える	▶主な狙いは語学学習や異文化体験 ▶1年次後期から1年間留学。グロー バル専攻は、アメリカの大学等に9月 から4、5月まで。東アジア専攻中国語 コースは、中国か台湾の大学に9月か ら7、8月まで。東アジア専攻韓国語 コースは、韓国の大学に9月から8月ま で
対応	対応内容	▶留学中の学生は、ほぼ全員が2020 年1～2月に帰国。春学期は留学先の オンライン授業を自宅などで受講。秋 学期は留学先と自学の授業を選択で きるようにしたが、時差の関係で、多数 が自学の授業を受講した ▶非常時対応として、以下のいずれ かの場合は1年間の留学を行ったと 見なす ①留学を1学期間経験して帰国 ②海外提携校の授業をオンラインで 1年間受講 ③インディペンデント・スタディ*3を 履修 ▶上記の場合も、再度留学に赴く オプションを選択できるように準備中	▶現2年生は留学を延期し、英語の授 業等を受講していたが、最終的に留学 中止を決定し、特別研修を開催。予定 していた北米講師による授業を実現 するため、本年2月にELSカナダとつな ぎ1か月100時間のオンラインプロ グラムを双方向型で実施。その後には キャリアプログラムも提供。状況が許せ ば、3年次後期に希望者が留学に参 加できるプログラムを準備する意向 ▶現1年生は、3年次春(2022年春) に留学を延期。2年次前期は、留学後 に受講予定だった科目を一部前倒し して実施。事前学習の内容を、これま での地域研究からグローバル企業研 究に変更して、帰国後すぐに就活に 臨めるようにする	▶現2年生は、2020年3月に留学を 中断して帰国。残りのプログラムはオ ンラインで受講し、プログラムを修了 ▶現1年生については、グローバル専 攻は、出発を2021年4月(語学留学) または9月(学部留学)に延期。1年次 後期は、留学先のELSで予定されて いたものとはほぼ同様のカリキュラム による、少人数・対面授業をキャンパ ス内にて実施。東アジア専攻は、中国、 台湾、韓国の感染状況および留学ビ ザの発給状況などを考慮しつつ2021 年1月以降に発給を延期。1年次後期 は、現地の大学の授業をオンラインで 受講 ▶説明会や文書を通して、学生・保護 者にタイムリーに情報提供
	背景	就活や卒業を不安視する学生や保護 者の声があり、苦渋の決断として留学 の代替プログラムを準備。インディ ペンデント・スタディでは、留学の狙いと 同等レベルのアウトプットを学生に求 めている	前年度、全員留学を経験した第1期生 の成長がめざましく、本年度も限界ま で留学を実現する道を探った。キャリ ア形成につながる留学が特徴なので、 中止決定後は語学だけでなくキャリア 教育の面でもフォローを行った	語学教育のほか、早期の異文化理 解・留学体験による学びを重視しており、 従来同様、実際に海外に学生を送 り出したと考えている。そのため、中 止ではなく「延期」としている。さらに延 期となった場合の対応は検討中
今後について	「留学先で全人格的にもまれること、 現地に身を置いて学ぶことの大切さ が改めて浮き彫りになった。一方で、 距離を越えて著名な研究者に講演し てもらうなど、オンラインだからできる ことも経験した。その利点を取り入れ、対 面と併用し学びを強化していきたい」 (熊谷嘉隆理事・副学長 談)	「現地に行く意義は極めて高い。当初 予定の留学より短期間になったとして も、リアルな異文化体験ができる機会 を何らかの形で設けたい。留学プロ グラムを通じた学生の成長の可視化を 進めており、データを検証してプログラ ムの改善・向上に努める」 (古家聡学科長 談)	「留学時期の入れ替えはあっても、ト ータルとして4年間のカリキュラムを壊さ ないようにしたい。現1年生は、語学は 現地留学と同様の内容を提供できて いるが、異文化体験が不足。現2年生 は、改めて留学した際に単位を認定す るなど、柔軟に対応する」 (藤田直也学部長代理 談)	

\*3 インターンシップとMOOCs履修を組み合わせながらテーマや活動内容を自分でデザインする学び。  
2020年12月から履修登録受け付け

## 学びを止めない！ 国内でできる グローバル教育

outbound

今号で取材した大学は一律に、「現地では学べない学びがある」と、留学の価値を再認識している。渡航の制限が続く中で、各大学はグローバル教育についてのどのような対応を取っているのか。

### 学生のグローバルマインドを 育てるために今、できること

「緊急措置」で終わらせず  
今ならではの学修効果を

コロナ禍による海外渡航の制限は、日本人学生のグローバル教育に大きな打撃を与えた。今回、その影響が深刻な「全員留学」制度を設ける国際教養大学、武蔵野大学、近畿大学に取材した。P.7にまとめた通り、3大学はいずれも、渡航制限が緩和され次第、留学に行けるしくみを準備するとともに、留学の代わりとなる学修プログラムを提供している。

渡航前に留学を中止した武蔵野大学グローバル学部グローバルコミュニケーション学科は、留学先のオンライン授業と併せて、アフターコロナ時代のグローバル人材像を検討し、新たな目標を設定する特別研修を実施。研修後の学生から「この状況だからこそ考えられること、できることがわかった」「全てを留学で行おうと考えていたが、今後は国内の学習にも自覚的な姿勢で臨みたい」と、学びの意欲を捉え直す声があがったという。

近畿大学国際学部グローバル専攻

攻の留学は、ELSが提供する授業をまず学内で、次いでアメリカで受けるしくみだった。渡航延期を受けて大学は、学内授業を担当するELS講師に継続勤務を要請。留学先とはほぼ同じ語学プログラムを学内で提供した。

国際教養大学は、留学の代替プログラムを新たに策定。国内インターンシップと\*2MOOCsを組み合わせて、学生自らが学びを立案・実行するもので、全員留学同様、学生が自分の進む道を切り拓くことを強く促すものとなっている。

3大学ともに、これら国内プログラムを受講したうえで留学を経験した学生の成長にも期待する。語学力や課題解決力、将来のキャリア観などが底上げされた状態で、留学に臨むことになるからだ。P.8～9では、グローバル教育を推進する多様な方法として、学内や地域の多様性を高める取り組み(広島大学、島根大学)、グローバル人材育成での新たな挑戦(神戸外国語大学)、海外協定校のノウハウを自学の遠隔教育に生かす事例(東京都立大学)を紹介する。



# 広島大学

所在地/広島県東広島市 学生数/約14700人  
THE世界大学ランキング2021/801-1000位  
同アジア版 2020 / =177位  
同日本版2020/12位

## 海外大学のキャンパスを学内に設置 「Town&Gown」で取り組む国際化

広島大学は、アリゾナ州立大学(ASU)のキャンパスを東広島キャンパス内に設置、共同運営を行う。ASUは、学生数をこの15年で約5万人から約12万人に増加させた「全米で最も革新的な学校」\*1だ。設置されるのは「ASUサンダーバードグローバル経営大学院-広島大学グローバル校」で、2021年8月に学士課程を開校する。東南アジアや日本のインターナショナルスクールに通う生徒が主なターゲットで、1期生は25人、将来的には毎年250人を受け入れる予定だ。

同校の共同運営によって広島大学は、キャンパス内の多様性の向上、マネジメント手法や教授方法の共有を期待している。2020年11月にはオンラインによるパイロット授業を実施した。さらに、地方都市の発展モデルを構築する狙いもある。ASUはTHE世界インパクトランキング2020で5位に輝くなどSDGsに熱心に取り組むとともに、本部を置くテンピ市と「Town&Gown」\*2方式で地方創生の実績を上げている。これに倣い、広島大学と東広島市は2020年4月に「Town&

Gown Office準備室」を設置。ASUやテンピ市と連携してイノベーションや働きがいの創出、外国人との共生、環境保全などをめざす。

現在、東広島キャンパスでは国際交流拠点施設の建設も進んでおり、キャンパスが「自学の学生や教職員のための場所」から「外国人や市民を含め多様な人が集う、街のグローバル化の中心地」に変わろうとしている。

海外大学のキャンパスを学内に設置するのは、日本の国立大学では初という。「国立大学も“金太郎アメ”のような無個性では生き残れない。他大学がやっていないことに挑戦する必要がある」と越智光夫学長は語る。



▲ASUの授業を受講するなどの交流がすでに始まっている

\*1 U.S.News & World Report誌が全米の教育機関から毎年15校を選出。ASUは6年連続で第1位を獲得 \*2 Town(街)とGown(教職員、学生)が一体となった街づくり

# 島根大学

所在地/島根県松江市 学生数/約6000人  
THE世界大学ランキング2021/1001+位  
同アジア版 2020 / 401+位  
同日本版 2020 / =81位

## 留学生と地域をつなぎ 地域貢献型のグローバル化を推進

島根大学の国際交流は、留学経験を通して県の地域活性化をけん引する人材を育てる点に特徴がある。そのためアウトバウンドでは、単に語学や異文化体験にとどまらず、課題解決力の育成をめざす研修を増やしている。代表例が「グローバル・イシュー実践海外研修」だ。学生は2月に10日間、カンボジアに赴き、現地の課題解決をめざして自分たちが企画した活動を行う。2020年2月はコロナ禍により中止したため、2021年2月のオンラインによる実施が初開催となる予定だ。学生による企画立案に代えて、現地の問題を解決する課題研究プログラムなどを同国のNGOと連携して準備した。「実際の渡航と同じ効果は期待できないが、オンライン化により多くの学生に参加機会を提供できる」と国際交流センターの青晴海教授は話す。

インバウンドについても、地域活性化に取り組む。同大学に来る留学生は、地域との交流を希望する学生が多いため、地域の空き家を住居として提供したり、スポーツイベントを開催したりして、地域交流を

サポート。さらに県内企業に就職するための支援も実施している。IT人材などの不足から、県の経済界は優秀な留学生の確保に意欲的で、複数の企業が寄付金を供出して、基金を設立。県内企業のインターンシップに一定期間以上参加した留学生に、奨学金を支給している。

さらに、東京の大学に通う外国人留学生の1ターン就職支援について、東洋大学と連携。2020年2月に同大学の留学生19人を島根県に招き、3日間の就業体験、県の魅力を伝える講演などを提供。日本の豊かな地方文化を体験する機会にもなっている。



▲インターンシップ先企業と留学生の面談の様子

# 国内で取り組むグローバル教育 TOPICS

# 東京都市大学

所在地/東京都世田谷区 学生数/約7500人  
THE世界大学ランキング2021/1001+位  
同アジア版 2020 / 401位  
同日本版 2020 / 141-150位

## 海外協定大の遠隔授業ノウハウを FDを通じて自学の教育にも生かす

「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」は、1年次2月または2年次8月から約4か月間、オーストラリアのエディスコワン大学(ECU)またはマードック大学(MU)で、英語と教養を学ぶプログラム。特徴は希望者全員が参加でき、英語力を問わないこと。参加の敷居を下げることで、特に理工系学生に世界を知るきっかけを与え、「使える英語力」を育てる狙いがある。自由参加だが、例年、1年生の1~2割が渡豪。TAPを同大学の志望理由に挙げる受験生も多いという。

2020年度はコロナ禍により、1年次2月からの参加者は3月下旬に緊急帰国。受け入れ先大学のオンライン科目を6週間受講し、カリキュラムを修了した。2年次8月から参加予定だったグループは、留学を1年延期。英語講座、ECU、MUによるオンライン研修や現地学生との交流の機会などを提供し、モチベーション維持を図っている。

これらの代替措置を取る中で、同大学は多くの収穫を得たという。オンライン授業のノウハウの習得はその一つ。「ECU、MUは以前から

日常的にオンライン授業を取り入れており、授業の進め方や課題の出し方、配信システムなどが洗練されていた」(本間宏二国際センター長)。事前学習用の映像を用意する、各授業のテーマを明確にする、といった工夫を、FD研修会を通じて全学で共有し、自学のオンライン授業に生かした。また、オンラインによる英語の授業は、消極的な学生にも発言の機会を与えやすく、高い学習効果が見込めることもわかった。「例年より検定のスコアが高く、手応えを感じる。オンラインでのコミュニケーション力養成は今後さらに重要になる。配信の機会を増やしたい」と程田昌明国際部長は述べる。



▲途中帰国した学生に提供されたECUによるオンライン授業

# 神田外語大学

所在地/千葉県千葉市 学生数/約4200人  
THE世界大学ランキング日本版 2020 / =36位

## オンラインを活用して世界を巡る 海外スタディ・ツアーを計画

開学以来、外国語学部の一学部体制だった神田外語大学は、2021年4月、グローバル・リベラルアーツ(GLA)学部を新設。「世界の現実を体感し、平和のために活躍できる人」を育成する。外国語学部の場合、「まず手段としての語学力や知識、スキルを主に国内で身に付け、その後、世界に飛び出す」教育モデルだが、GLA学部はその逆で、「入学直後に世界に飛び出し、課題を肌で感じて、その課題解決に必要な力を帰国後に身に付ける」教育を行う。

世界の課題を感じる機会として設けているのが、1年次6~7月に行われる「海外スタディ・ツアー」。日本とは社会状況が大きく異なる地域(右図)での3週間の研修を通じて、貧困、環境汚染、民族や宗教の対立といった課題と向き合う。そこで感じた平和を願う心をモチベーションにして課題解決に必要な専門性を国内で培い、3年次後期のニューヨーク州立大学への留学でさらに深める。

2021年の同ツアーは、オンラインでの実施に変更。受け入れ先大

学提供の授業、現地学生とのディスカッション、ビデオカメラを使った現地NGOへの“バーチャル訪問”などを予定している。当初は4地域から1地域を選んで訪問する形式だったが、オンライン化により、1人の学生が4地域を全て体験することが可能になった。一方で同学部は現地でのリアルな経験も重視しており、オンラインプログラム開催後も、渡航制限が緩和され実施可能な時期に短期ツアーを行う予定だ。

総合型選抜の受験生と接した金口恭久副学長は「コロナ禍中においても、世界をフィールドに課題解決に挑もうという高校生の意欲はまったく衰えておらず、心強く感じた」と話す。

人道	多文化共生
リトアニア 国立ヴィータウタス・マグナス大学	インド シンバイオシス国際大学
宗教	サステナビリティ
エルサレム 国立ヘブライ大学	マレーシア・ボルネオ 国立プトラ大学/スウィンバーン工科大学

▲入学後すぐに体験する海外スタディ・ツアー訪問先

